

地方公務員らでつくる国内最大の産業別労働組合「自治労」の第84回定期大会が30、31の両日、函館市民体育館（湯川町1）をメイン会場に開かれる。全国から約4500人が出席する見込みで、函館で最大級のコンベンションとして経済波及効果にも期待が高まっている。（森健太郎）

## 飲食、宿泊特需に沸く

自治労の全国大会は道内では2001年の旭川以来で、函館では初開催。全国約2600の組合の代議員や傍聴者らが集まり、今後や運動方針などを審議する。市によると、函館で5000人規模の大会開催は1992年の日本青年会議所の全国大会（約1万7000人参加）以来20年ぶり。市内には5000人を取容できる施設がないため、市民体育館をメイン会場に隣接する市民会館大ホールや小ホールなどでモニタリ中継する。会場では道南の水産加工品やスイーツなどの物販ブースも設ける。市コンベンション推進課によると、5000人規模だと、地域経済への波及効果は約3億円あるとの試算も。市内の飲食店やホテルでは予約が埋まりつつあり、特需に沸いている。活魚料理「いか清」（本町）では大会期間中に数千人規模の団体予約が10件ほど入り、「（最盛期の）12月の忘年会シーズン並み」という。室田秀文店長（35）は「目当ての新鮮な活イカを存分に味わってもらいた

# 経済効果 高まる期待

## 30、31日に函館で自治労全国大会

め、多めに仕入れて準備したい。



ポスターやのぼりを手に大会をPRする函館の自治労関係者

ロワジュールホテル函館（若松町）では、30日は計200室が早々に満室。各単組の分科会などで使われる宴会場の予約も好調で、担当者は「お盆後で客足が落ち着いてくる時期としては異例」と話す。函館国際観光コンベンション協会などは駅や空港に歓迎看板を掲げ、主要な施

設、交通機関などにも歓迎して歓迎ムードを高め、函館に波及する経済効果に期待している。各関係機関は「全市を挙げてほしい」としている。

函館新聞

2012. 8. 21 (火)